

# 医療安全トピックス TOPICS

Vol.163

杉山 恵里香

一般社団法人日本医療安全調査機構  
医療事故調査・支援事業部

## 医療事故の再発防止に向けた提言第19号 「肺動脈カテーテルに係る死亡事例の分析 第1部 開心術編／ 第2部 検査編」について

日本医療安全調査機構（医療事故調査・支援センター）では、医療事故の再発防止に向けて、さまざまな活動を展開しています。今号では、2024年2月に公表した提言の一部を紹介します。

肺動脈カテーテルは、心臓手術や肺動脈カテーテル検査（右心カテーテル検査）、重症患者管理などで広く使用されています。一方で、肺動脈カテーテルによる心臓損傷や肺動脈損傷などの合併症の報告もあります。

当センターに報告された肺動脈カテーテルに関連した死亡事例9例について、専門家からなる分析部会で検討し、再発防止の提言としてまとめました。

本稿では、提言の内容を一部抜粋して看護職の皆さまにご紹介したいと思います。

### 〈開心術編〉肺動脈カテーテル抜去で心臓損傷!? ～閉胸前の確認の重要性～

肺動脈カテーテルは、心臓手術の術中・術後管理のために多くの医療機関で使用されています。合併症としては、一般的に心臓損傷や肺動脈損傷が知られています。手術でカテーテルを挿入して終了時に創を縫合する際、心臓壁にカテーテルを縫込んでしまい、その状態のまま抜去すると心臓損傷を生じ、致死的となる場合があります。

今回、分析対象とした開心術事例のうち、縫合の

際にカテーテルを縫込み、抜去時に心臓損傷が生じた事例が3例ありました。3例中2例は、術中に縫合を行った部位のうち数カ所の確認に留まり、もう1例は、確認を行わずに閉胸していました。そのため、縫込まれた部位と異なる部位の確認、触診だけの確認となり、縫込まれている状態に気がつきませんでした。

カテーテルの縫込みは、カテーテルの経路である右心系やそれに近接する左房・肺静脈、糸掛けを行ったすべての部位で生じる可能性があるため、閉胸前に外科医と麻酔科医が共同でカテーテルが縫込まれていないか視診・触診で確認することが重要です。そして、手術にかかわるスタッフとも情報共有することが望まれます。

また、カテーテルの抜去は集中治療室などで行われることから、術者と異なる医師が抜去する場合があります。そのため、麻酔科医および手術室看護師は、縫込みの確認について記録を残し、術後チームに申し送ることが推奨されます。

今回、関連資料としてカテーテルの縫込み事故防止のための啓発ポスターを作成しました（図表1）。